

インマヌエル中目黒キリスト教会
聖日礼拝2007.6.17.

メッセージ

ローマ書連講34

『神の慈しみと厳しさ』

ローマ人への手紙11章13~24節

竿代照夫牧師

聖書朗読

新約聖書

ローマ人への手紙11章13-24節

13 そこで、異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから、自分の務めを重んじています。

14 そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。

15 もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。

16 初物が聖ければ、粉の全部が聖いのです。根が聖ければ、枝も聖いのです。

17 もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をとともに受けているのだとしたら、

18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。

19 枝が折られたのは、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。

20 そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。

21 もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。

22 見てごらんなさい。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。

23 彼らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わすことができるのです。

24 もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につがれたのであれば、これらの栽培種のものは、もっとたやすく自分の台木につがれるはずで

メッセージ

ローマ書連講34

『神の慈しみと厳しさ』

ローマ人への手紙11章13-24節

竿代照夫牧師

主テキスト：

「見てごらんなさい。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。」

(ローマ11：22)

A.

「逆転劇」におけるパウロ自身の役割

(13-14節) (図1)

1. ローマのクリスチャンは殆どが異邦人
2. パウロは異邦人への宣教師 (図2)
(ガラテヤ2:7-9)
3. しかし、パウロは同胞ユダヤ人を救おうとした。

<日本の宣教と海外宣教>

図1
イスラエルの回復

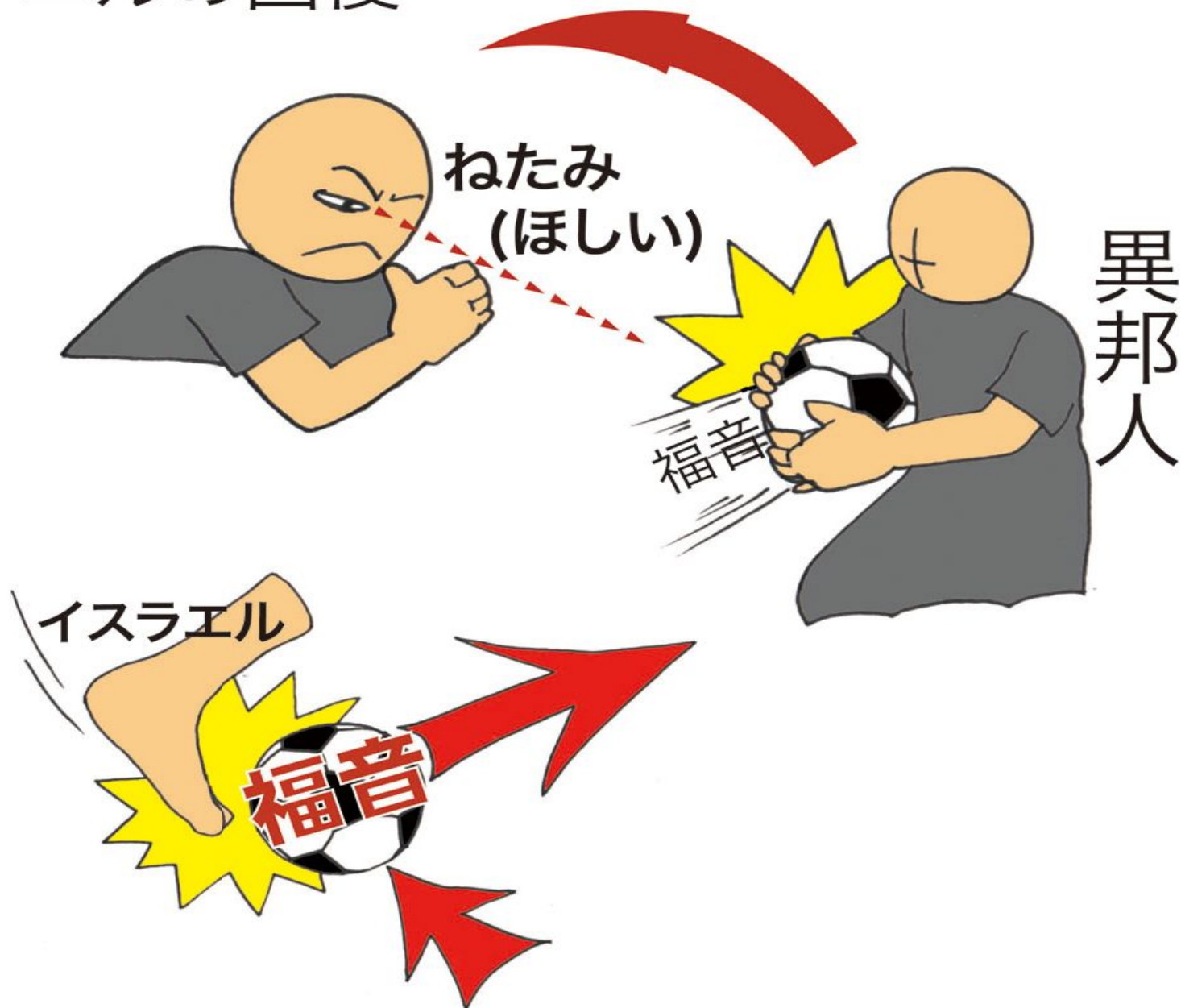
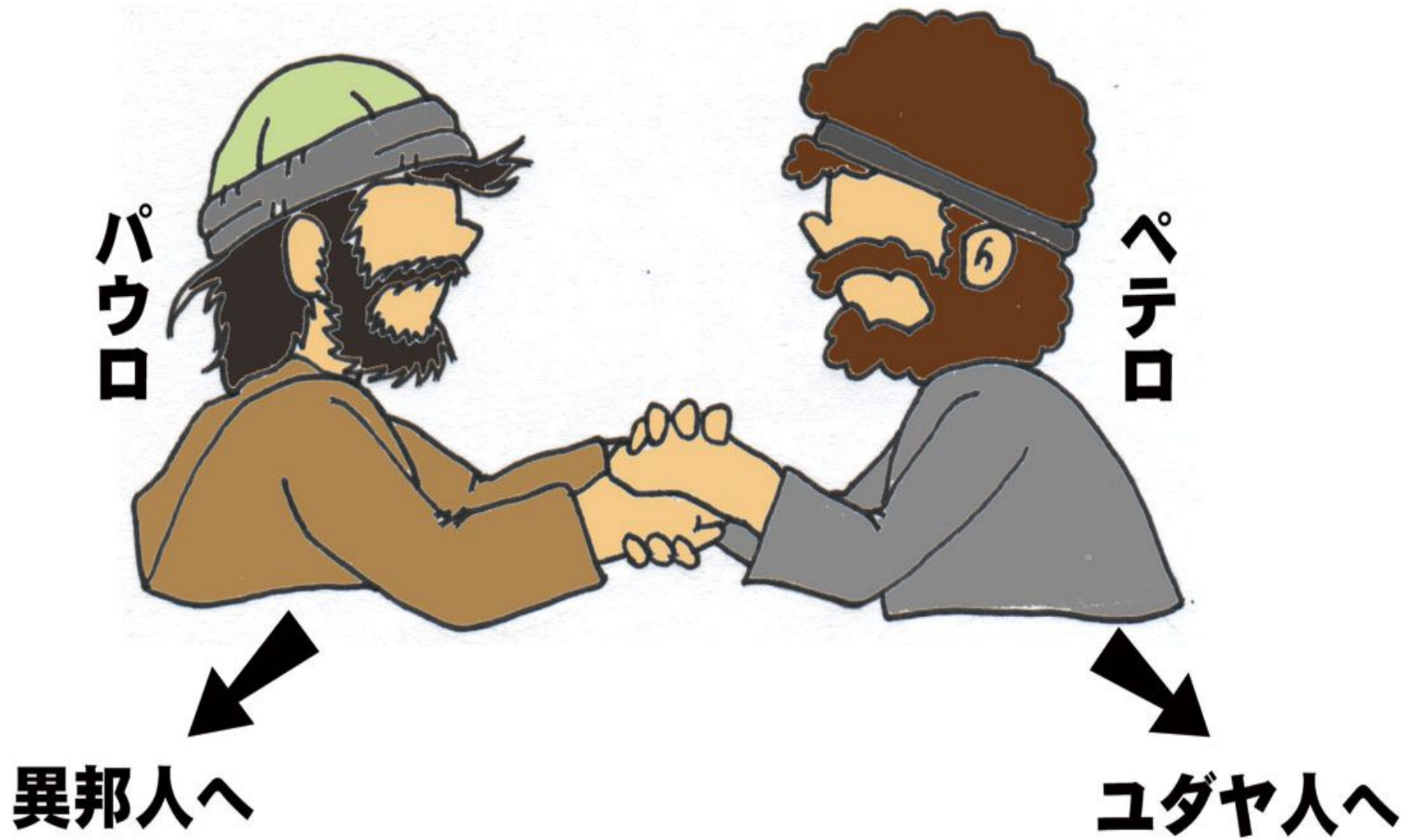


図2



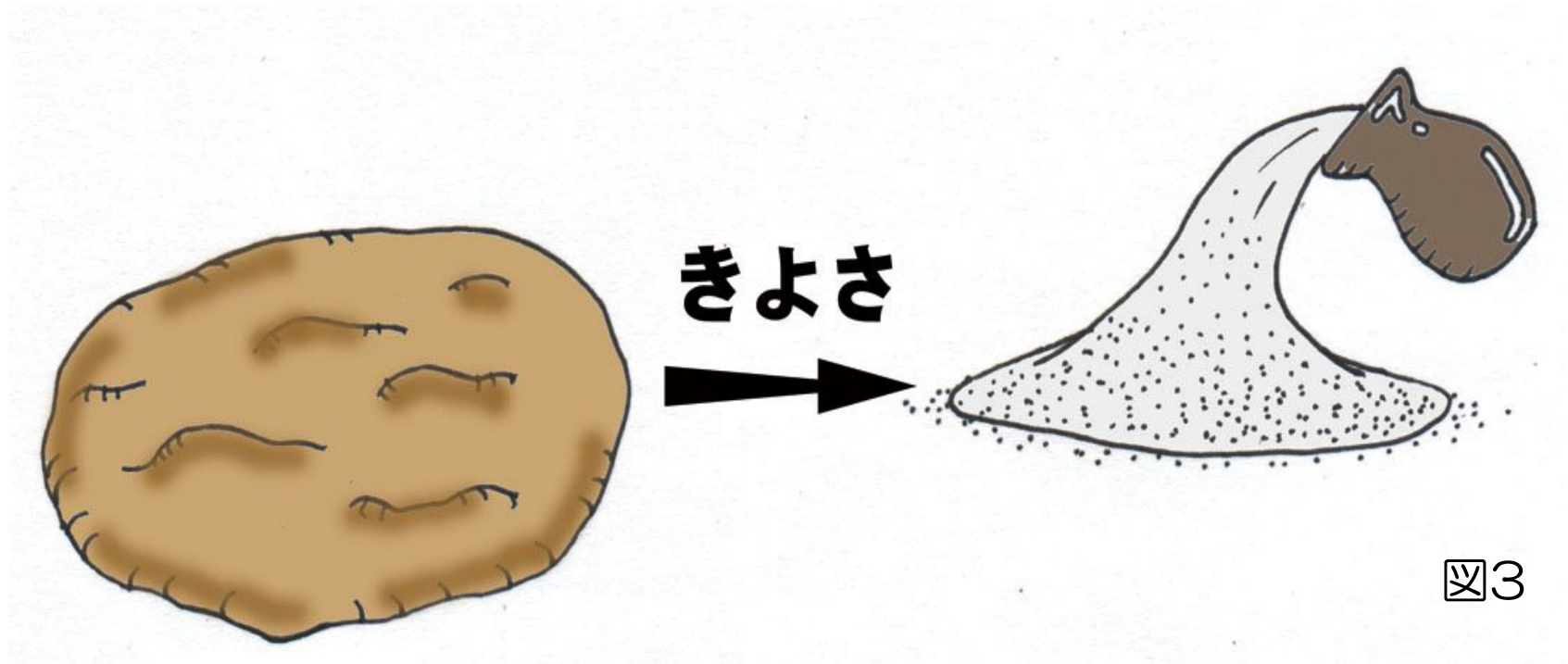
B. イスラエル回復の望み（15-16節）

1. イスラエル回復は、「復活」に
等しい奇跡

（ゼカリヤ12：9-10、13:1、14:4）

2. 二つの譬え

①初物と粉（民数記 15:17-21）



2. 二つの譬え
②木の根と枝



図4

へりくだ

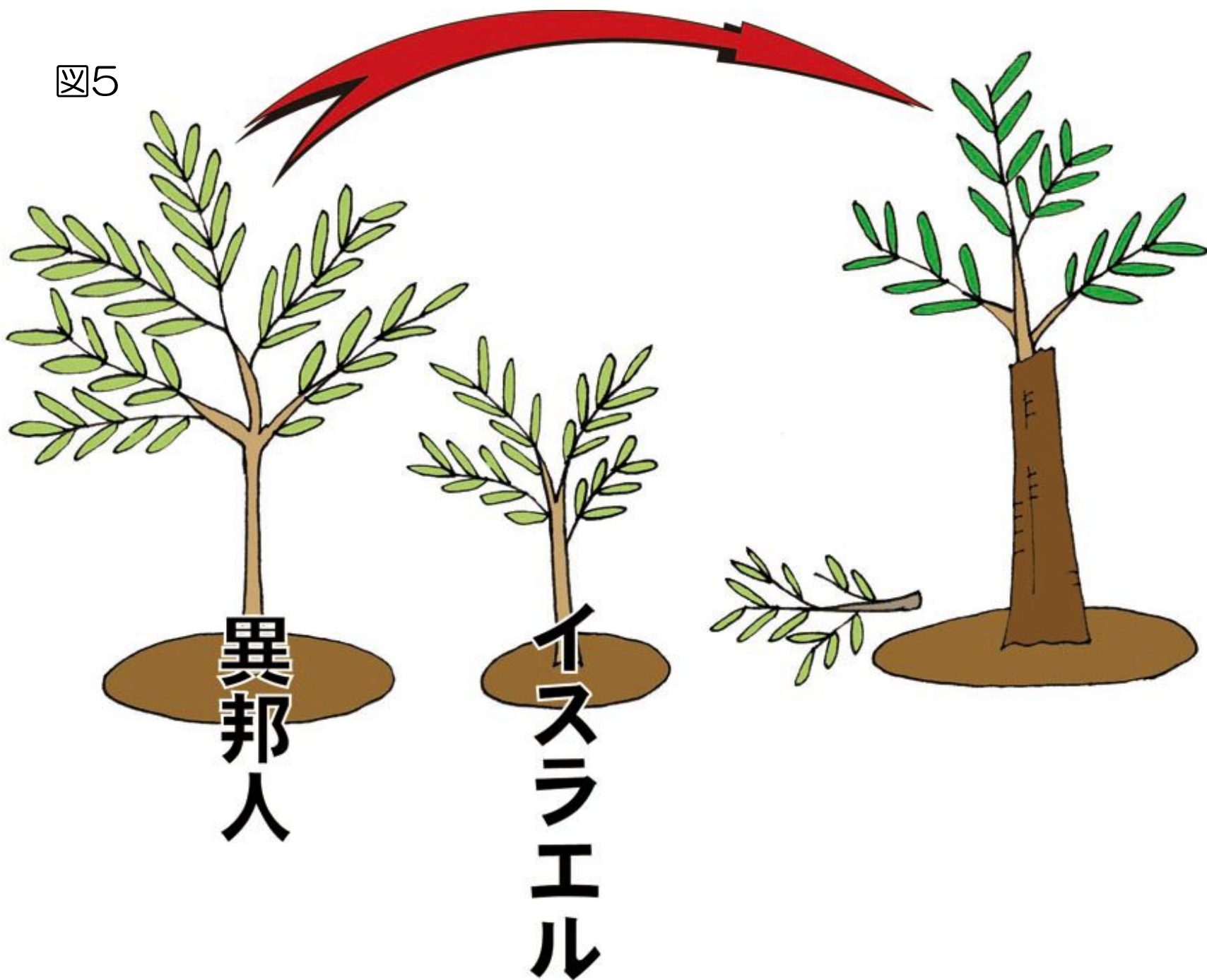
C. 「接木された」異邦人に必要な謙り
(17-21節)

1. 栽培オリーブと野生オリーブ
(図5)

栽培オリーブ=イスラエル
野生オリーブ=異邦人

2. 接木の枝は誇るな！

図5



D. 神の慈しみときびしさ（22-24節）

1. 神の慈しみと厳しさを覚えよ

慈しみ＝価値なきものを受け入れて
くださる寛大さ、愛の大きさ

厳しさ＝不信仰・不服従を意図的に
続けるものへの裁き

2. イスラエル回復は大いにありうる

終わりに：

へりくだ

へりくだ

謙りに始まり、謙りに終わる信仰